

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見をはじめさせていただきます。
市長よろしくお願いたします。

◆市長

今年最後の記者会見であります。この一年間いろいろなことがありました。さまざまな市政の出来事について、市政記者クラブの皆さま方には精力的に取材をしていただき、報道していただいたこと、ほんとに厚く御礼を申し上げます。来年もどうぞよろしくお願いをいたします。

さて、今日は報告が二つであります。まず一つ目は桜ヶ丘病院の移転についてであります。もう、これはご承知の通りのことと思えますけれども、旧清水市時代から四半世紀に及ぶ行政課題であった桜ヶ丘病院の移転に関して、桜ヶ丘病院の運営主体である独立行政法人地域医療機能推進機構、通称 JCHO と、さる 21 日に基本協定書を締結しましたので、改めてご報告いたします。今回、清水の皆さんの安心安全を守るため、地域の重要な病院が非常に利便性の高い場所に移転することになりました。移転先は清水駅東口公園であります。現在の公園面積の約 7 割が病院の用地となります。新しい病院の開院は令和 5 年度中を見込んでおり、現在稼働している病床数と同じ程度のおおむね 150 床程度の規模となる予定であります。桜ヶ丘病院の移転について、清水地域にお住まいの皆さんが長く将来にわたって安心して医療を受診できる体制を充実させていくため、清水地域全体の医療がどうあるべきかという論点に立って、他の病院の関係者にも集まっていただいて協議を行いつつ、そして、この桜ヶ丘病院の移転場所、病床数、そして、医師の確保など、ハード、ソフト両面にわたって検討を進めてきた結果、このような締結となりました。先月下旬に JCHO からの依頼に対して、四つの土地の移転候補地を提示しました。その中の一つ、JCHO がお選びになった東口公園は清水庁舎の移転場所として議決もいただいた場所であり、その場所を候補地の一つとして提示することはとても厳しい決断であるのは否めません。

しかし、市民の皆さんの生命に関わる地域医療の確実な存続が、現在においては、より緊急性が高いと判断いたしました。振り返れば旧清水市時代の 14 年前、旧清水市時代からこのことは行政課題だったんですけれども、14 年前の平成 18 年には、行政改革の一環で、社会保険庁の直営の病院であった桜ヶ丘病院が整理統合される可能性がありました。撤退するかもしれないという声もささやかれました。そこで 13 万人を超える市民の皆さんが、ぜひ清水での病院の存続を望むという署名運動を繰り広げていただきました。私もそうした皆さんの思いに報いるためにも撤退をさせない、桜ヶ丘病院

を存続して欲しいと、そのことをずっと追い求めてきた、これまで真摯に取り組んでまいりました。市長が代わりましたけれども、私になりましたけれども、ずっと市行政はそのことを取り組んできました。もともと、現在、清水地域の医療体制は、救急医療をはじめとして、とてもひっ迫している状態であります。市全域の中では医師の偏在が起きており、葵区に比べると清水区は医師の確保が喫緊の課題であります。こうした課題の解決に向けて、またお住まいの皆さんの安全安心な生活環境を確保するために、この医師確保という問題、これからの課題でありますけれども、桜ヶ丘病院の医師確保も中長期的に支援してまいりたいと思います。

一方、3.11の後にこの問題に取り組んできましたので、この東口公演は津波が来るんじゃないかと、津波浸水の想定区域内、不安だという声も聞いております。先日の締結式で、記者からその質問もございました。JCHOの尾身理事長はそれに対して、新たに建設する病院について、他の都市での先行事例や実績を踏まえて、区域内であっても発災後の業務の継続は可能であり、ここを選んだと、病院機能は維持できるとお答えになりました。これから経営主体はJCHOになりますので、JCHOからその不安を和らげるような情報発信をしていただきたいと、私からもお願いしてあります。

一方、事務手続きを一時停止している新清水庁舎の整備事業についてであります。これも本会議で答弁をした通り、ポストコロナの時代に求める新しい庁舎の在り方、これは急速な行政のデジタル化の進展の具合を見定めながら、ハード・ソフトの両面から調査研究していく一定の時間が必要だと受け止めております。現時点で、東口公園、行政機能の集積という言葉を使いましたけれども、庁舎の移転の可能性を排除するものではありませんが、スピード感をもって調査研究に取り組んで、早期に庁舎の在り方を示していきたいと考えております。

いずれにせよ清水駅東口公園を含むこの江尻地区は、清水都心地区の都市機能向上にとって、大変重要なエリアであります。移転によって交通結節点であるJR清水駅に、たいへん交通至便の総合病院になります。病院を利用する方々の利便性の向上につながるなど都市機能が充実し、地域にお住まいの皆さんがこの場所に病院があつて良かったと思っただけだと、私も尾身理事長も確信をしております。今後もさらなる都市機能の集積を図るなどの取り組みを進めて、高齢化社会にも対応する利便性の高い清水地区の実現を目指してまいります。以上であります。

さて、次の話題は恒例であります。今年の振り返りとして私の漢字1字を発表したいと思っております。「支」えるであります。コロナ禍にあつて、私たち市行政としては、市民の皆さんの二つのLife、「いのち」と“くらし”を支えることに全力を尽くしてきた1年であったと思います。また、市民の皆さん一人ひとりの思いやりの気持ちに支えられて、私たち市行政も取り組みの効果をj得ることができました。そんな思いを込めて、この字を書かせていただきました。来る2021年も新型コロナウイルスとの闘いが続きます。私たちは引き続き支えあい、力を合わせてこの困難を乗り切っていかなければ

ればなりません。今、この時も私たちの命を支えてくださっている医療従事者の皆さんは、一人ひとりが感染しない、させないという心がけを期待しております。医療現場を支えていただくことを、市民の皆さんに改めてお願いをしたいと思います。いまだに医療従事者の皆さんへの差別、誹謗中傷が報告されております。どうか感謝と思いやりのエールを、報道機関の皆さんからも発信をしていただきたいと思います。

それから、お手元の資料の、今年を振り返って、「令和2年静岡市の主な出来事」をご参照ください。画面でも表示をされております。四つのカテゴリでまとめました。

一つ目は、「市民の皆さんへの情報発信・安全安心の確保」です。4月の補正予算で「新型コロナ何でも相談ダイヤル」を設置して、感染防止から社会経済活動の維持まで何でも、コロナに関する1次相談窓口として電話対応してきました。6万件を超える電話を受け付けたという報告をもらっています。

二つ目は、「感染防止対策と新しい生活様式への対応」です。5月には休業要請を行い、要請に協力いただいた皆さん、約4,000件、総額21億円の新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金を支給させていただきました。

三つ目の「経済支援・観光支援」では10万円の特別定額給付金をお届けいたしました。一方、“エール静岡”、静岡市の経済対策については“エール静岡”という冠を全て統一して付けさせてもらいましたけれども、みんなで応援しよう、支え合おうという趣旨の応援金であるとか、補助金などを支給させていただきました。

四つ目は、そうはいっても社会経済活動も維持しなきゃいけないという、「まちの賑わいの創出」であります。国の規制緩和を最大限活用して、「一茶Seasonal」であるとか、しずちかのところですね、「まちお茶キャンペーン」であるとか、あるいは呉服町、七間町に「ハニカムスクエア」、密にならない野外にちょっと一息、腰掛ける場所を、地産材を使ってオープンをいたしました。

そのようにコロナ対応に悪戦苦闘した1年ではありましたけれども、年初には明るい話題もありました。1月早々、静岡学園高校サッカー部の全国高等学校サッカー選手権大会の優勝は、本当にうれしい出来事でありました。ラグビー花園、今回、東海大翔洋高校が出場します。1回戦、強豪、秋田工業との対戦でありますけれども、ぜひエールを送りたいと思います。また彼らの頑張りに私たちも元気をもらいたいなと思っております。結びに、今年の夏、忘れてはいけない大きな出来事として、吉田町での倉庫火災事故がありました。亡くなった職員の皆さまに哀悼の意を表し、生命の重さを心で刻んで、今年の振り返りとさせていただきます。私からは以上です。

◆司会

それでは皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。社名とお名前おっしゃってからお願ひします。NHKさん、お願ひいたします。

◆NHK

NHKです。桜ヶ丘病院について、取引の問題については後ほど幹事社質問があると伺っておりますので、それ以外のことなのですが、市長、先ほどもさかんに「利便性が向上する」とおっしゃいました、駅直結で、外来のクリニック機能としてはわかるんですが、救急として考えた時にいかがなのか、一番、人口が密集して交流人口も多い駅西口から言いますと、病院に救急車が行こうと思えば、北側か、南側に踏み切りまで大きく回りこまなくてはならない、信号もいくつもあります。はっきり言って清水庁舎に行くほうが早いぐらいですよ。清水庁舎よりも救急車が到着するのに時間が掛かる上に、津波の浸水想定深も50センチ高い、到達時間も速い。

これが清水庁舎よりベターな選択だと言えるのかどうか、どうお考えなのでしょうか。

◆市長

私たちもそのところをJCHOさんに問題提起をさせていただきました。実務的にはちょっと本田副市長から答えていただきますけれども、JCHOさんのほうからは、「あそこで大丈夫だ」と回答をもらっております。少し補足してください。

◆本田副市長

副市長の本田でございます。今の部分については、我々としてもJCHOさんとお話しているところでございます。あと、一般論といたしましては、立地についてはネットワークで考えるべきでございまして、そのネットワーク、救急搬送の状況から一概に清水庁舎のほうがベターとは言えないというように、今のところは考えておりますし、必要に応じて、我々としても、またネットワークの強化などで、しっかり対応していきたいと考えております。以上でございます。

◆NHK

例えば北側から、興津側から回り込んでくる時のマリンロードにある中央分離帯については、直で右折できるように中央分離帯の撤去などにはあり得ると思うんですけど、例えば、駅近に踏切を作るですとか、跨線橋を作るとか、そういったウルトラCが考えられているのか。いかがでしょうか。

◆市長

副市長、マイクの関係で座ったまま答えてください。

◆本田副市長

正直申し上げまして、どこまでできるかというのは今、検討の端緒に付いたところでございます。実際、記者もご存じのとおり、用地の問題でございまして、離隔の問題と

か、いろいろございますので、私どももそこについては今後の検討課題として進めていきたいと思っております。ただ、今のところしっかりとした事業に関しての計画を持っているわけがないので、今後、桜ヶ丘病院の立地に合わせて、どのへんができるかというのをしっかり検討してまいりたいと思っております。

◆NHK

分かりました。もう一つ、市長に伺います。市長、21日の会見で、“災い転じて福となす”とおっしゃいましたが、これ、あそこに清水庁舎を移転する計画、あの通りにしないで済んで良かったという意味ですか、どういう意味でおっしゃいましたか。

◆市長

災いというのはコロナ禍のことを指します。この桜ヶ丘病院のことも、全ての市政の中の一つのテーマなんですけれども、コロナ禍によってできないことがたくさんありました。しかしながら、コロナ禍が一つの大きなきっかけになって、今回、年内にこの問題決着をしたと、そういう意味ではこれを早く決着させる、市民の皆さんに清水の医療体制の充実の姿を、令和5年度中に見せられることができるということは、福ではないかと思って、そういう言葉を使ったわけです。

何でもそうだと思うんですね、災いというのはいろんな意味で困難を作りますし、非常にそこで茫然自失、立ち尽くすことって、それぞれの人生にもありますよね。でも、そこに立ち向かって、その制約の中から乗り越えていくということ、だから、私は昔の人はね、よくこういう言葉をずっと、時代を超えて私たちに、今、ことわざとして使われ続けているというのは、そういうことなのかなとしみじみと思っております。

◆NHK

福となすというのは、清水庁舎移転計画をあの通りに進めるのをやめる口実ができて良かったという意味ですか。

◆市長

そんなことはありません。もっと大きな意味で使わせてもらったということと理解いただきたいと思います。

◆NHK

分かりました、ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問のほうをお願いい

たします。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

幹事社SBSです。よろしくお願いいたします。

まず、1点目なんですけれども、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、県内の自治体でも成人式を中止する自治体があります。静岡市は開催することに変更はないでしょうか。また、21日に難波副知事が市役所を訪れ、会場だけの感染リスクだけではなく、全体的な感染リスクを考えるよう要請しましたが、このことについて具体的な対策はお考えでしょうか。お願いします。

◆市長

先日、ご指摘の通り、難波副知事から成人式に関わる要請をいただきました。中止の要請ではありません。しかしながら、会場だけではなく規制等も含め、全体的な感染リスクを踏まえた対応をしてほしいというもので、報告を受け、私自身もしっかりと受け止めております。この件の要請なども踏まえて、会場での対策はもちろん、県外からの規制、式典後の集まりに対しても、ビフォー・アフターも含めて対策を徹底した上で、幸い10万人当たりの感染者数、今、落ち着きを見せておりますので、今日の時点では開催していきたいと考えております。

ただし、今後の事態の急変、例えば市内の感染状況の著しい悪化であるとか、国が緊急事態宣言を発令するという事になった場合とか、状況によってはオンラインでの実施への切り替えという判断をさせていただく可能性はあります。

とにかく万全の体制を市行政、取っていきたくと思っています。具体的には、すでに参加の登録をしてくださっている新成人の皆さんには、事前の健康管理の徹底や、会場での感染予防策の遵守、そして、式典後も大人数や長時間の会食等、感染リスクのある行動を避けていただくようメールなどで繰り返しお願いをしており、それを担保する、徹底する仕組みを構築しました。お手元に配付している参加者チェックリストをご参照ください。この画面のやつですね。この20項目全てにレ点を入れた新成人だけが式典会場の入場パスを取得できるようにいたします。

それから登録のうちの約8%ぐらいですけれども、1割弱の新成人が県外から参加をされます。2週間の健康管理の徹底を求めているところではありますが、そのような対応ができない方や、ご家族に高齢者とか、基礎疾患がある、そういう方は参加を控え、オンラインでの参加をお願いしたいと思います。

当日は、これもお手元のチラシをご覧ください。これ、新成人による実行委員会の皆さんがアイデアを尽くして、こんなふうに作りしましたけれども、これを当日一人ひとりに配付をいたします。新成人に大人としての自覚を持った行動を、当事者意識を持ってもらう、「自分たちのことだ」と言って、これを呼び掛けて、ワンチームになってもらえ

ればいいなと思っております。

さらに式典、短くやりますけれども、式典が終わった後のフォローも、これ、市行政、していきたいと思っております。式典当日の夜、市役所の所管の子ども未来局、青少年育成課の職員を中心に、“夜のまち見回り隊”を結成します。どうしても羽目を外して、繁華街に行って騒いでしまうという心配をお持ちの方もいらっしゃると思いますので、そういうことがないように市の職員が責任を持って見回り、パトロールして、市内の繁華街の巡回を行って、プラカード掲げたり、チラシを配ったりして、新成人たちに節度ある行動を呼びかけていきたいと思っております。

これら総合的に感染対策を講じた上で、市と実行委員会が一体となって、また、新成人の皆さんの一人ひとりが、まさに大人の第1歩として自覚と責任感のある行動を取っていければ、一生に一度の成人式の日でありますので、安全な成人式が、静岡市において実現できると私は考えております。以上です。

◆ S B S

すいませんこのチェックリストなんですけれども、あくまでも自己申告ということになるのでしょうか。

◆ 市長

そうです。

◆ S B S

わかりました。すいません、2点目です。桜ヶ丘病院の移転先がJRの清水駅東口公園に決まりましたが、協定書の中にはJCHOが所有する大内新田の土地と、東口公園の一部を等価交換すること、現在の桜ヶ丘病院の土地との等価交換や無償対応なども含め、残りの土地の取得方法を協議すると記載されておりました。協議はいつまでに終えたい考えでしょうか。また、取得した土地はどのように活用していくのか、お願いします。

◆ 市長

今回の基本協定では、新しい病院については令和3年度中の建設工事への着工、そして、5年度中の開院と計画していることから、来年度中の移転地にかかる所有権移転続きの完了が必要となります。所有権移転にかかる各種手続き等に要する期間を見定めて、スケジュールに遅れが生じることがないように、協議を進めてまいりたいと思っております。つまり、令和5年度中の開院というのは一つの目標ですので、ここを起点にしてバックキャストで来年度やるべきことを、きちっとJCHOと車の両輪になって、準備を進めていきたいと思っております。

一方、今回の協定、まずJCHOが新病院の移転地を大内新田の土地と等価で交換する

ということも主張され、これを決めました。そして、この等価での交換により、移転地全てが取得できない場合には、現桜ヶ丘病院との土地の交換や無償貸与を含め、残地の取得方法を協議するとしております。大内新田の土地利用につきましては、土地を、かつて病院がここへ来るからと供与してくださった地権者もたくさんおります。そういった地元の皆さんの意見を伺いながら、生涯学習交流館と公園を整備する方向で検討を進めております。今後、具体的な作業に入ってまいります。

なお、協定の中にある現桜ヶ丘病院の土地についての記載は、JCHO側の要請に基づき盛り込んだものであります。市が取得することが決まったものではありません。大内新田と東口公園との評価の差の対応については、これも今後、JCHOと協議してまいります。以上です。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問に関連してのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさんお願いします。

◆NHK

すいません、たびたび。取引の問題について伺います。議員さんと意見交換していても、この協定書の文言が、JCHOがかなり有利な、一方的なものではないかという、特に無償貸与ですとか、等価交換というくだりについてですね、まず前提として大内新田の土地は東口公園と等価とお考えなのかどうか、いかがでしょうか。

◆市長

それは評価額が違いますから、等価ではないですね。

◆NHK

で、等価でないのだとしたら、その差額分を無償貸与することが、いかに相手が公的病院とはいっても、無償で、あの一等地を提供するということがあり得るのか、市長どうお考えでしょうか。

◆市長

私は厳しいと思っています。

◆NHK

無償では貸せない。

◆市長

今回、東口公園を、先ほど私が申し上げた通り、厳しい決算をして提供したわけですね。その市の思いにJCHOさんも歩み寄ってくれるものだと、私は考えております。

◆NHK

歩み寄るといえるのは何を求めるのか、市が一方的に差し出すだけではなく、これ、財産処分として、議案としてどうかという問題も、もしかしたら住民監査請求ということもあり得るかもしれませんが、等価にするために市は何を求めていく…

◆市長

やっとの思いでお互いが譲り合って、このような合意をして、これからは真摯に相手の立場を尊重しながら、その件についても法的に瑕疵がないように進めてまいりたいと思っています。

◆NHK

現金で、まず素直に清算するか、現病院の土地をもらうか、どちらが市長は良いと思っ
てらっしゃいますか。

◆市長

それも含めて、これから協議してきたいと思います。

◆NHK

この病院の土地を仮にももらう場合も、今、用途が何か念頭にあるわけではないと思いま
すけれど、例えば津波が浸水の恐れがない場所として、清水庁舎の分庁舎のヘッドクオ
ーター機能を寄せるですとか、清水庁舎にある三つの本局機能を置くような、何か市の
庁舎として使うものを作るとか、そういった構想はあるのでしょうか。

◆市長

記者のそのアイデアというのも、なるほどなと思わせていただきました。いろんな選択
肢があるかと思しますので、それも協議の素材にしてきたいと思います。

◆NHK

分かりました。あと、これも前回の会見の後、事務方に伺いましたが、大内新田の土地、
差額があることを前提にしてもあまりにも広過ぎて、今おっしゃった交流館ですとか、
公園ではもて余すと思います。ほんとに有効活用できるのでしょうか。

◆市長

地元で気持ちに寄り添っていくということに尽きると思います。先ほど申し上げた通りね、旧清水市の時に、ここに総合病院が来ればみんなのためになるなと思って、先祖伝来の土地をね、提供してくれた地権者が多数いるのを私は知っておりますのでね、彼らと協議をするということで、有効活用していきたいと思っています。

◆NHK

その有効活用が、今、市長がおっしゃった交流館や公園だけで有効活用しきれぬのか、その譲ってくれた地権者の方に報いるような何かアイデアは、市長はどうお考えですか。

◆市長

これも、これから地元の皆さんと締結式が終わったわけですので、これが確実なものになったわけですね。これから地元の皆さんのね、この土地がこんなふうに活用してほしいなというような、夢とか思いとか、それを聞かせていただいて、実務的に進めていきたいと思っています。

◆NHK

活用のめどが立たないまま、来年度中にやらなきゃいけないからということで、JCHOがいないといったものを引き取って済ませてしまうということはないと考えていいですか。

◆市長

いやそれは同時並行にしていく話だろうと思います。まずこれを等価交換したというところで、我々のものになるという見込みの中で、地元の皆さんと協議していきたいと思っています。10かゼロの話ではないということですね。

◆NHK

その用途についても、来年度中にある程度方向性定めた上で引き取ると…

◆市長

これは、これから実務で始まっていく話ですので、今日の時点で、副市長、何か記者にお答えできることがあったら、捕捉をお願いいたします。

◆本田副市長

すいません、今の時点でお答えできることあまりないのですが、市長からお答えしたことが全てでございまして、地元とよく相談して、しっかり両方が納得できる形で土地利

用に結び付けられればいいなというようなことを考えております。何しろ検討の端緒に立ったところでございまして、今までも地元の皆さんから要望などを承っておりますので、それをベースに考えていきたいと思っております。以上でございます。

◆NHK

わかりました、ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に、じゃあ中日新聞さんお願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。成人式の日には繁華街を見回しするということでしたけれども、かえって家だったり、寮とか狭いところで、大人数で飲み会になってしまうリスクもあるんじゃないかなと懸念したんですけれども、そのあたりまでは何か対策、考えていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

いろんなリスクは想定をしておりますけども、まず大事なのは記者、やっぱり新成人の自覚ですよ。そこを求めたいと思いますし、そういう報道を繰り返ししていただきたいと思います。私たちは市民の皆さんが、若者が羽目を外すのではないかという懸念の声をいただいているので、それに対して抑止していかなくちゃいけない、これはもう、アフターフォローをしていくのは市の職員のミッションだと思って、自主的に青少年育成課の職員が、「よし、彼らを祝う気持ちの中で、こんなことをやろう」と、提案してくれたんでね、一定の効果があるかと思えます。

◆司会

テレビ静岡さん、お願いします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。関連してですけれども、夜のまちを見回られるということですが、お店側に、例えば明らかに新成人が来たら対応を求めるとか、そういう飲食店組合とかに、何かそういう新成人が来た時の対応を要請したりするお考えとか、現状で何か動きはあるのでしょうか。

◆市長

特別、新成人のために今のところやっております。これはもう、一般市民の皆さんに

対して、保健所がステッカーを貼って感染対策をしてという啓発で、保健所の見回りもしたわけですね。そういう流れの中で、「今、ここの店だったらお客さん、安心して入っていいよ」というオペレーションしてるわけですが、今、アイデアをいただきましたので、新成人に特化した形で、そのあたりをどうするのかということは、一つ検討の課題にしていきたいと思います。子ども未来局長、それでいいですか。

◆子ども未来局長

はい。

◆市長

何かな、首、かしげてるけど…

◆テレビ静岡

いえ、例えば新成人が来た時に、店側がお断りしてほしいとか、そういうことを言うつもりはあるのかとか、そういうこと、どうでしょう、そこらへんは要請しないということでもいいんですか。

◆市長

どうだろう、子ども未来局長。

◆子ども未来局長

まず、今のご質問の関係で、先ほどお見せしましたチェックリストの中で、一番下に『式典終了後』ということを書いてございますが、この中で式典終了後も、国が示す5つの場面の回避、こういったところを、ぜひ新成人の方には守っていただくということを、一つの示しとしてお願いしています。まずはこういったところ守っていただいて、また質問された方が違いますけれども、仮に寮であるとか、ご家庭であるとか、そういったところでも、やはりこういったところは避けていただく、そういった意識を持って行動していただくということを、まずはお願いしたいと思っています。

で、お店へのお願いなんですけど、ここのところはお店というところで難しいところもあるかと思いますが、この巡回が、例えばまちで、こう“たむろ”されている若者たちに対して、まずは啓発したいということを目的に行ってきたいと考えております。以上でございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。第一テレビさん、お願いします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです、お願いいたします。今日も徳洲会病院の感染者の方が 10 人と発表がありました。病院での感染拡大について、市長はどう思われていますか。よろしくお願いいたします。

◆市長

本当に最前線で頑張っている医療従事者の方々が感染してしまうということには、心を痛めております。少し状況については担当から説明させていただきますけれども、昨日が 9 人、今日が 10 人、本当に徳洲会、累計かなりの数に上っておりますので、心配をしているところであります。

◆保健衛生医療統括監

保健衛生医療統括監の杉山でございます。よろしくお願いいたします。ご指摘の通り、9 人、9 人、10 人ということで、徳洲会病院のほうの感染者が発生しているという状況でございます。病院のほうも感染拡大防止について取り組んでいるとお伺いしておりますけれども、保健所としても近日中に病院のほうに行って、再度、状況の聴き取り等をさせていただきながら、感染拡大防止に努めるということで進めていきたいと思っております。

◆司会

それでは幹事社質問関連以外もご質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさん、お願いします。

◆NHK

すいません、たびたび。今日どうしても伺わなくてはいけない命の問題があります。本日、12 月 24 日は 6 年前に亡くなられた、静岡病院にお勤めだった市職員男性の方の命日です。午前 11 時に亡くなっておられます。市長、この方に対しては、追悼の言葉はないのでしょうか。

◆市長

追悼の意を捧げたいと思います。

◆NHK

市長の名前で、去年この職員のご遺族に示された公務災害認定通知書には、「異常ともいえる職場環境の中で繰り返し行われた本人への叱責や罵倒は精神疾患を発症させうるだけの強度な精神的負荷であった」と記載されています。市長は、去年 12 月 25 日の

会見で、私がこの記述を読み上げたところ、「そんなこと誰が言ったのか」と、「勝手に前提を作るな」というようなことをおっしゃって私に聞き返すほど、この記述に関心を持っておられませんでした。翻ってこの1年間はこの異常ともいえる職場環境という指摘をされた職場環境の改善策、どのようなことをなされたのでしょうか。

◆市長

所管している保健福祉局長、お願いします。

◆NHK

市長から伺いたいんですが…

◆市長

私は先ほど申しあげました通り、たいへん残念な出来事だと思っております。今後、こういうことが起こらないように、再発防止に心がけていきたいと思っています。

◆NHK

この1年間、その心がけは何か実行されてきたのでしょうか。

◆市長

もう独立行政法人になった静岡病院でありますので、院長はじめ、理事会の皆さんも、このことは強く意識しているということを、私は確認しています。

◆NHK

裁判の弁論、先週17日にありました。亡くなった男性のご遺族、私たちの前でこのようにお話してくださっています。「市職員として勤務してきて、勤務先で起こった出来事で公務災害として認められているのに、市には責任がないというのは納得できない。早く解決してほしい。誠実に向き合ってほしい」とのことです。市長の今回の訴訟対応方針のために裁判が長引いて、今もって法廷でも職場環境についての具体的な見解を示されておらず、ご遺族を苦しめ続けていることをどう思っているらっしゃるんですか。

◆市長

これ、今、裁判所の議論が進んでいるわけですね。そこに委ねていきたいと思えます。

◆NHK

去年末の会見の後、私に対して、「静岡市長である私の気持ちを慮ってほしい、思いや

ってほしい」ともおっしゃいましたけれども、市長ご自身は亡くなった部下のご遺族に対して思いやりはお持ちなんですか。

◆市長
持っています。

◆NHK
例として申し上げますけど、明日ちょうど12月25日、裾野市ご出身で電通過労死事件の高橋まつりさんの命日にもあたりますが、電通は今も年に1回は社長が静岡のご遺族と面会して、働き方改革の進捗状況を説明するという機会も持っているんです。私どもの組織でも亡くなった記者に対しては、会長が累次にわたって弔問をしています。市長はこの6年間、ご遺族に対してどのような思いやりを示す機会を持ってこられたのでしょうか。

◆市長
家族を失った者の悲しみということは、私も想像して余りあります。

◆NHK
それをお伝えになることは今後もないわけですか。直接お伝えになることは。

◆市長
このことについて病院の理事長や病院の院長、今日このようなご指摘があったことを報告して、対応してまいりたいと思います。

◆NHK
市長ご自身はいかがですか。遺族は市長に言葉を投げかけています。

◆市長
先ほど申し上げましたとおり、今、裁判の過程でありますのでね、そのところは今日、私の個人の思いとして、先ほど哀悼の意を捧げたということで、ご理解いただきたいと思います。

◆NHK
分かりました。

◆司会

その他いかがでしょうか。ご質問よろしいでしょうか。それでは今年最後の会見となりますけれども、年末年始を迎えるにあたりまして、市長のほうから一言、よろしくお願ひいたします。

◆市長

たいへん切ないご質問も頂きましたけれども、冒頭申し上げました通り、今日、年内最後の記者会見でありますし、今日はクリスマスイブであります。医療現場の皆さんは今日も年末年始も関係なくコロナとの戦いの最前線に立ってもらっています。

そこで医療現場の皆さんへ感謝と思いやりのエールを届けたいという思いから、本日、クリスマスソングミニライブを行います。ライブ配信でお届けしますので、市民の皆さんも奏でる音楽で心を癒やしていただきたいなと呼び掛けたいと思います。

実は、これ、感染拡大防止との関連で店名公表問題が議論になった時、一番、この会見でも話題になったのが誹謗中傷対策をどうするかということでありました。公表した後のフォローをどうするかということですね。それに対して私たちは例えばこういうバッジ、「わたしの、あなたの、みんなの」というような呼び掛けをすることによって啓発をしたい、あるいは市の教育委員会に協力をさせていただいて、小学生、中学生、子どもたちにも誹謗中傷をやめようと、思いやりの心を持とうという教育をしていこうと、いくつか誹謗中傷対策を立案、実行しているわけですが、今日のこの音楽のプレゼントも、市のまちは劇場推進課とか、福祉総務課の職員が準備をしてくれて、そして、クリスマスイブに間に合わせてプレゼントするものであります。こういう音楽の力を通じて、誹謗中傷や差別を防ぐことにもつながればなと思っております。

現在、静岡市の新規感染者の発生は一時に比べれば落ち着いていますが、病床のひっ迫具合は依然予断を許さない状況であります。全国的に拡大が収まらない地域があり、年末年始そういった地域から帰省してこられる方もいるでしょう。また、年末年始ということで気が緩んでしまって、感染予防が疎かになってしまうというリスクもあります。医療現場の皆さんへの思いやりの気持ちをもって、お互いの生命を大切に、先ほど話題になった成人式に参加される新成人の皆さんはもちろん、市民の皆さん一人ひとりが感染しない、させないという行動を取っていただくようお願いします。

音楽の力で、やはり少し心を和ませたい、癒やしたい、誹謗中傷をしないという気持ちになってくれればいいし、また、東海大翔洋高校が、去年、流行語にもなった“ワンチーム”と。「みんなが一人のために、一人がみんなのために」、「All for one, One for all」、こういう気持ちになることが、今こそ試金石ではないでしょうか。言葉で言うのは簡単ですよ、「All for one, One for all」。でも、なかなかこういうふうに自分は感染したくないという気持ちがある時に、そこまで相手のことを思いやるというのは難しいことであるということは十分わかります。しかし、そのところを静岡市民の皆さん

んは、ぜひそんな「All for one、One for all」、「みんなが一人のため、一人がみんなのために」という気持ちで、医療従事者の皆さんのことを慮って、あるいはお年寄りの方を慮って行動していただきたいということをお願いいたします。

年末年始も市行政のほうでは「何でも相談ダイヤル」や「発熱等受診相談センター」の対応はしっかりさせていただきますことも申し添えます。

重ねてのお願いになりますが、今年最後のお願いになりますが、生命を守ることを最優先に、どうぞ健やかな新年をお迎えくださいますよう、お祈り申し上げます。

以上です。

◆司会

以上で市長の定例記者会見を終わらせていただきます。

次回の予定は来年1月8日、金曜日11時からとなります。